

SUPER 耐久シリーズ 2010 第5戦

in

岡山国際サーキット



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

初めての岡山国際サーキット！！
過酷な状況で価値ある3位表彰台！！

- ・開催サーキット：岡山国際サーキット（3.703km）
- ・チーム：TRACY SPORTS
- ・マシン：TRACY SPORTS S2000
- ・カーナンバー：#41
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A 兵頭 信一 B 長野 賢也 C 東 徹次郎



予選（9月4日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回の岡山は初めて走るサーキットです。
前日の練習では岡山特有のコーナーなどに苦戦し、思うようにタイムが出ていませんでした。
予選に向け、オンボードの映像を見たりチームの他のドライバーに聞いたりしながら前日のイメージを修正していました。

今回予選はCドライバーの枠で走ります。
予選順位はA&Bドライバーの合算なので直接順位には関係ありませんが、自分もいつもの予選アタックのつもりで3ラップアタックしてこいとチームから言われました。
3ラップとはタイヤを温存する意味もあるからです。

コースイン時の1周目から、バックストレート手前のアッドウッドコーナーのラインを変えました。
アッドウッドコーナーは高低差もあってかなり上って加速していくので、前日の練習までは立ち上がり時に抵抗が無いようステアリングをなるべく切らないよう大周り気味に立ちあがっていたのですが、イン側のラインで立ち上がるようにしたら走る距離が少なくなるぶんステアリングの舵角が残っていても速いことがわかりました。

計測2周目までですぐ前のシビックに追いついてしまい抜いて行こうか迷ったのですが、更にその前方にも遅いマシンがいたので一回スロー走行して前との距離を広げました。
最初の2周が前に引かかって思うように走れなかったのが、これが最後アタックです。

最後のダブルヘアピンでクラス1のマシンと遭遇してしまい、ここで抜かれる際に若干ロスしてしまいましたが、それでも自己ベストは更新して手ごたえも前日よりかなり良くなりました。
予選をみるとセクター1のタイムはほぼ同等で走れているのですが、セクター2&3でまだロスが多いので、決勝に向けてその部分を修正しなければと思いました。

総合予選順位：クラス6位（参加台数14台）

※A&Bドライバーの予選タイム合算による

Cドライバー予選タイム：1'47.841

（クラス6位）



決勝（9月5日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

決勝は気温35℃、路面温度55℃というドライバーにもマシンにも過酷な状況で109ラップのレースが始まりました。
作戦としてはA・B・Cドライバーの順に走り、自分が最後ロングで走るというものでした。

まずレースがスタートしてすぐにアクシデントを回避しようとして順位を10位くらいまで落としてしまったのですが、Aドライバーの兵頭さんが交代する20ラップの間に追いつけてくれて4位でBドライバーに交代します。
Bドライバーの長野賢也さんも31ラップ走行してそのまま4位をキープしてくれ、2人ともマシンをノータブルの状態で自分に渡してくれました。
自分はここから50ラップ走行の予定です。

自分が乗り込んだ際にリアタイヤだけ2本交換し、コースインしました。
チームからはなるべく49秒後半から50秒前半のタイムでと指示されていたので、路面やマシンの状態を確認しながらペースを作っていました。
リアタイヤを交換して出ましたが、グリップ感というよりは高い路面温度のせいもあって乗り味はニュルニュル滑るというような感じです。

今回からクールスーツも付いてかなり身体的には楽になりましたが、それでも30ラップ過ぎてからは冷たい感じも無くなって、とにかく暑さとの闘いです。
マシンも、前の車で風の当たる量が少しでも減ると水温が100℃オーバーしてしまうので、すぐにシフトアップをショートシフトにして水温を下げるように対処していました。
ロングランで足回りも不安ですしS2000はデフとドライブシャフトが弱いので、決勝ではその部分をいたわりながらなるべく縁石に乗せない走り方になりました。
その中でなるべく速いタイムで安定して走れるよう、ブレーキの踏み方、ステアリング操作もスティント前半から後半で修正していきました。

確実なグリップレベルの向上は感じないまでも、リアタイヤを交換したことによって弱アンダーステアの傾向になったので、レース後半もバランスは悪く

なくコントロールしやすかったので、決勝乗り始めからチェッカーまで終始安定してラップを刻むことが出来ました。

そして自分が代わって中盤くらいに60号車が止まったのが見えて、自分が3位に上がったことがわかりました。

ただ後半に2速の入りが少し渋くなってきていたので、残り10ラップからは全てのコーナーの縁石を乗らないようにしました。

プッシュしたい気持ちもありますがそれを抑え、まずはマシンをゴールまで持って帰ることが最優先ですからね。

50秒台前半から中盤のタイムでの走行でした。

ラスト5ラップくらいで95号車が前に見えてきてサインボードでアップのサインが出ていたので、おそらく95号車は2位なのだと気付きました。

しかしこっちも少し不安要素があったので、プッシュするべきか非常に迷いました。

そして95号車が前の車とバトルし始めたので、ラスト3ラップで自分もムチを入れて縁石を使う走りに切り替えます。

49秒台ペースに入ったのですがラスト4秒差まで追いつめたところでチェッカーという悔しい内容でゴールしました。

しかしロングランで過酷な状況の中、マシンをいたわりながら安定したペースで走ることができ表彰台に乗れたことは自分にとっても価値あるものだと思います。

決勝：3位 (Total:99Laps)

※ベストラップ：1'49.475 (Total:48Laps 走行)



反省

今回初めて岡山を走りましたが、久しぶりに練習から非常に苦戦していました。

路面の勾配をうまく利用しないといけないコーナー、低速の複合と今まで走っていたサーキットとはまた少し違った難しさがありました。

一発でポンと乗れてこない自分に歯がゆさと焦りもありましたが、ロガーやオンボード映像、そしてチームメイトに教えてもらいながら一つずつ修正していききました。

そして何とか決勝までには間に合って、決勝前のフリーでは3人の中ではとりあえずトップタイムだったので、決勝に向けて自信になりロングランも任せてもらうことが出来ました。

今回暑さも非常に厳しいものでしたが、チームがクールスーツを用意してくれたのと自分も暑さ対策のトレーニングを意識してやってきたこともあって、ロングランでも安定して良いタイムを刻むことが出来たのは非常に良かったです。

また、第2戦のSUGOの表彰台のときよりも自分のペースのバラつきが無かったので、しっかりと活かしていることが大きいです。



最後に

今回も沢山の応援、本当に有難うございました。
岡山は当初参戦予定ではなかったのですが、沢山の皆さんの応援によって参戦が決まりました。
岡山を走れることはGTなど大きなレースもやるサーキットなので、勉強にもなりますし非常に大きな意味があります。

今回金曜・土曜とタイムの悪かった自分を信頼してくれていたチームに本当に感謝です。
暑い中での48ラップというロングランも「徹次郎だから任せられた」と言ってもらえましたし、自分も安定して良いラップを刻めたことは期待に応えられたという意味でも非常に達成感がありました。

絶対にチェッカーまで車を運ぶということと、目前に見えていた2位のマシンをプッシュして追い上げるか、非常に自分の中で葛藤がありました。
だからこそラスト4秒差で届かなかったことは非常に悔しかったです、マシンを壊さないで3位はキープしてゴール出来たことは本当に嬉しかったです。
今回はいろいろな意味で勉強になりましたし、今後に繋がるものを大きく経験出来ました。

次のレースからは乗ることが決まっていますが、毎レース自分自身も成長出来ていると思いますし、この素晴らしいスタッフと何としても優勝したいので、残り2レースも戦えるよう全力でスポンサー活動も頑張ります。

どうぞ今後ともご支援ご声援のほど、宜しくお願い致します。

2010年9月6日
東 徹次郎